

**日本学術会議 第3部 化学委員会 材料化学分科会(第25期・第3回)
分科会委員会 議事要旨**

日時：令和3年12月24日（金）9：00－10：00

場所：ハイブリッド会議

出席者（敬称略）：関根 千津（委員長）*、玉田 薫（副委員長）、阿尻 雅文*、伊藤 耕三*、栄長 泰明、小林 昭子、谷口 功*、竹岡 裕子（幹事）、寺西 利治、内藤 俊雄（幹事）、山下 正廣（氏名右肩の*は現地参加者、それ以外はオンライン参加者）

欠席者（敬称略）：福村 裕史

議題および議事

1. 前回議事録確認

事前配布資料に沿って、前回の当委員会議事録が確認された。

2. 25期活動について

① 「地方にある大学の活性化」について

材料化学分科会のワーキンググループ（以下WG）から、これまでのWG内での議論の概要について報告があり、引き続いて委員会メンバーから広く意見を募った。運営交付金や国立大学の在り方に関するこれまでの政策の歴史の変遷を踏まえ、海外の動向や事例にも目を向け、全体像を広く深く把握したうえで、WGで継続審議していくことになった。

最後に、分科会を跨いだ小委員会の設置も検討することが委員長より告げられた。引き続き、各委員の協力と積極的な参加が依頼された。

② 「博士課程進学者減少への対応と研究者育成の立て直し」について

材料化学分科会のワーキンググループ（以下WG）から、これまでのWG内での議論の概要について報告があり、引き続いて委員会メンバーから広く意見を募った。博士課程に進学することの優位性を学生の保護者の方々に理解して頂くことの重要性、日本人学生の博士課程進学率が低い原因をさらに分析する必要性などが指摘された。また今後の活動方針に関して、1年を目途に迅速に進め、日本化学会を通じた各学協会との連携や化学委員会内での協体制で進めてゆくことが提案された。適切と判断されれば、分科会を跨いだ

小委員会を設置し、材料化学分科会として参加・活動する。今後本テーマについて会合を開催する見込みであるため、積極的な参加が依頼された。

3. その他

(な し)

以上 内藤記